

# でんでんくん



でんでんくん



きぬたくん



つちこちゃん

## 自立活動とは

No.6 平成31年1月17日  
発行：秋田県立聴覚支援学校  
(きこえとことば支援センター)

自立活動って何ですか。何をしたらいいですか。



様々な機会に、このような質問を受けることがあります。聴覚障害のお子さんの自立活動とは、一体どのようなことなのでしょう。基本的な考え方として、学習指導要領には、次のように示されています。

「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動**を取り入れること」

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月

どんな内容が考えられるのでしょうか。

自立を目指した指導目標を達成するために、学習指導要領等に示されている内容から必要な項目を選定して、関連付けて設定していきます。そのため、担任だけではなく、そのお子さんに関わる**複数の目で実態を把握**した上で、指導すべき課題を明確にすることが大切になります。

時間割上、どのような位置付けになるのですか。

お子さんの実態に応じて、自立活動の時間を特設して指導が必要な場合は、「国語の1単位時間を自立活動に充てる」等、他の教科との調整をすることになります。教科学習の時間を確保するために「毎日10分程、帯で時間を確保している」というケースもあります。ただし、難聴のお子さんへの指導は、特設した時間だけでよいものではなく、**学校生活のどの時間においても必要な支援や配慮は欠かせません**。

具体例があれば、イメージしやすいのだけれど・・・

自立活動は、あくまでも個々に応じたものです。下記の例は一例となりますので、担当のお子さんについては、関わる先生方で実態把握をした上で、指導目標や指導内容を設定しましょう。

### 例① 小2児童(両耳人工内耳装用)

- 【実態】 自分の経験を話せるが、思いつきのことが多い。文章表現でも助詞の誤りがある。国語、算数は個別学習。
- 【時間】 週1回 45分(国語1時間を自立活動に)
- 【目標】 朝の会のスピーチを自信をもって行う。
- 【内容】 経験の言語化、日記指導(5W1H)

### 例② 中2生徒(中等度感音性難聴。両耳補聴器装用)

- 【実態】 音楽、英語以外は、交流学級で授業を受ける。学習の遅れはないが、受け身が多い。
- 【時間】 (月)～(金)10分
- 【目標】 積極的な行動、コミュニケーション
- 【内容】 高校進学を見据え、自ら周囲に働きかけることができるよう、一日の振り返り等の会話をする。

そろそろ年度末のまとめや次年度に向けての引き継ぎ、準備等が始まっていることと思います。今一度、在籍する難聴のお子さんの自立活動の在り方を考えてみてはいかがでしょうか。何かございましたら、聴覚支援学校にいつでもご相談ください。

# 〈先輩と語る会〉

平成30年12月14日、本校高等部の産業技術科を卒業した武石氏から「働くために大切なこと～就職に向けての心構え～」と題してお話をいただきました。入社後の経験や学校生活を振り返り、後輩に伝えたいこととして次のような話がありました。

〈職場で気をつけていること〉

- ① 3k（決められたことを、決められたとおりに、きっちり守る）
- ② ほうれんそう（報告、連絡、相談）
- ③ メモ（普段、職場では口話を中心だが、大事なことは筆談で！）

〈伝えたいこと〉

- ① 簡単なことでもメモを取ること、記憶よりも記録が大事
- ② 自分の仕事に責任を持つこと、仕事を途中で投げ出す人は信頼されない
- ③ 失敗を恐れないこと、失敗することを考えずに成功させる決意が大事

県内の小学校2校、中学校1校、高校1校の生徒、保護者、担当者からもご参加いただきました。ありがとうございました。



〈紹介〉

講師：武石正敏氏（H26年度卒）

所属：(株)豊田自動織機（愛知県）

- ・ 幼稚部、高等部は秋田県立聾学校
- ・ 小学校、中学校は地元に通学



## 難聴理解学習の実践紹介



\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

難聴児が、在籍校で安心して学習するためには、聞こえない・聞こえにくいということを周囲の人が理解していることがとても重要になります。そのような環境を整えるために、難聴学級や交流学級の担任の先生は子どもたちの障害理解のモデルとしての大きな役割があります。今回はその難聴理解学習に取り組まれた、難聴学級の先生の実践をご紹介します。

○指導者：秋田市立上北手小学校 渡部香子 教諭

○対象学年・学級：4年生・交流学級

○ねらい：

- ・（交流学級）難聴擬似体験を通して「聞こえにくい」人の立場になって考えようとする気持ちを育てる。
- ・（難聴学級児童）学校生活で「聞こえにくさ」から困っている場面を見つめ直し、その状況を改善するために、自分ができることを考える。



〈事前学習 ※難聴学級〉

難聴児の困り感を日常場面から一緒に考え、交流学級に伝えることを提案。聞き手を意識した話し方を指導。



〈本時 ※交流学級〉

耳栓とヘッドホンを使っての擬似体験。  
※事前に聴覚支援学校の職員と打合せを実施。



〈事後学習 ※交流学級〉

道徳の時間で実施。本当の思いやりは相手の必要感に寄り添うことが大事であり、それはみんなで暮らしていくために必要なことと確認した。

渡部先生は、ご自身で本時の授業を振り返られた際に「これまでの学習について覚えている児童が多く、積み重ねることの意義を感じた」と述べられていました。難聴学級及び交流学級で、計画的に難聴理解学習を行い、実施後も日々継続して取り組まれていることが、子どもたちの学びの定着につながっています。

**難聴に関すること、補聴器に関すること、毎日の授業についてお気軽にご相談ください。**

きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）

〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

【直通携帯電話】090-8784-6302 【携帯メールアドレス】chou-sien0291@docomo.ne.jp

【聴覚支援学校】TEL：018-889-8572 FAX：018-889-8575

E-mail：chokaku-s\_shien@akita-pref.ed.jp